

PRESS RELEASE

株式会社 アイ・エム・プレス
I. M. press, Inc
2011年8月25日



「【生活者に聞く!】第6回 東日本大震災後の生活について」ダイジェスト

約25%が今後3カ月間にキャンペーン商品を購入予定。

約57%が懐中電灯を非常用に準備。

詳細は月刊『アイ・エム・プレス』 Vol.184(9月号)誌上で!

株式会社アイ・エム・プレス（東京都文京区）は、月刊『アイ・エム・プレス』掲載の連載「生活者に聞く!」シリーズ（調査主体：(株)アイ・エム・プレス／調査協力：(株)ドゥ・ハウス）で、東日本大震災後の生活について調査を行いました。本リリースでは、同調査結果のダイジェストをお送りします。

<調査の概要>

調査期間:2011年7月19日(火)~21日(木)
調査方法:(株)ドゥ・ハウス myアンケート light を利用
調査対象:北海道、東北、北関東を除く地域に居住する20~60代の男女

サンプル数:1,142
調査主体:(株)アイ・エム・プレス
調査協力:(株)ドゥ・ハウス

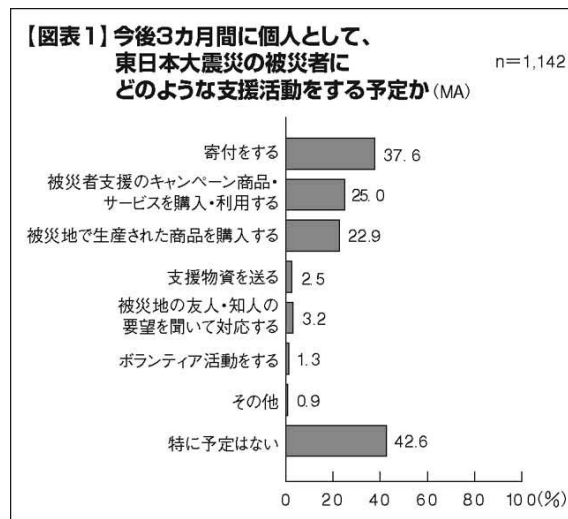
<調査結果紹介>

●今後3カ月間に37.6%が「寄付をする」、25.0%が「被災者支援のキャンペーン商品を購入する」

東日本大震災の発生から4カ月以上が過ぎた。被災地の復興にはまだまだ時間がかかり、支援体制の継続が求められる中、生活者は個人として、どのような支援活動を行っているのか。

まず、これまでにどのような支援活動をしたかと聞いたところ、74.8%が「寄付をした」と回答。「被災者支援のキャンペーン商品・サービスを購入・利用した」が16.5%、「被災地で生産された商品を購入した」が14.9%など。

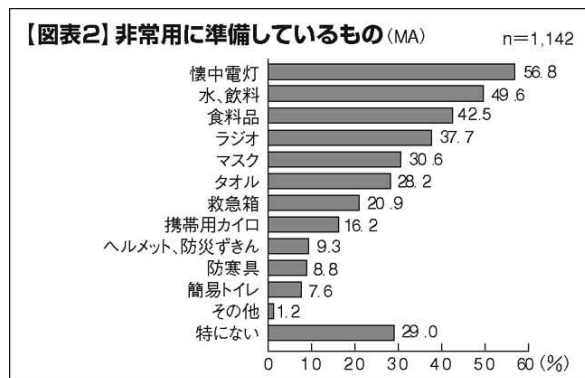
今後3カ月間の予定では、「寄付をする」が37.6%（図表1）。また、「被災者支援のキャンペーン商品・サービスを購入・利用する」は25.0%、「被災地で生産された商品を購入する」は22.9%と、これまでにを行った人の割合を上回っていた。今後はこのようなかたちを中心にして、個人の支援活動が継続されていくことが予測できる。



●非常用に準備しているもののトップは「懐中電灯」で56.8%

非常用にどのようなものをストックしているかを聞いたところ、71.0%が何らかの準備をしていた。しかしその内容をひとつずつ見ていくと、最も多い「懐中電灯」でも準備している人は56.8%に過ぎず、「水・飲料」は49.6%、「食料品」は42.5%など（図表2）。

次が「ラジオ」が37.7%、「マスク」が30.6%、「タオル」が28.2%と続く。「救急箱」は20.9%に過ぎなかった。



調査結果の詳細は、2011年8月25日発行の月刊『アイ・エム・プレス』Vol.184(9月号)に掲載いたします。月刊『アイ・エム・プレス』Vol.184の詳細は、<http://www.im-press.jp/magazine/> から。

「生活者に聞く!」のさらに詳しい情報は
「アイ・エム・プレス」Webサイトからお申し込みいただけます。
<http://www.im-press.jp/magazine/1000s.html>

インターネットが企業と生活者、そして企業と企業をつなぐ時代。従来からの競合の概念は大きく変化し、顧客主導型経営の重要性が叫ばれています。月刊『アイ・エム・プレス』では、このような“変革の時代”に勝ち残るための顧客づくりのヒントを、年間定期購読システムによりお届けしております。

<株式会社アイ・エム・プレス>

代表取締役社長： 西村道子 / 設立： 1989年10月19日

業務内容： 出版、セミナー企画、調査、編集

〒113-0033 東京都文京区本郷2-14-14 ユニテビル6F

<本リリースに関する問い合わせ先>

(株)アイ・エム・プレス 編集部 / edit@im-press.jp までお気軽にお問い合わせください。

TEL : 03-3815-8991 / FAX : 03-3815-8957 / URL : <http://www.im-press.jp/>